



## 1 実験の目的

改行はバックスラッシュ2個を書きます。  
空行をいれると、段落が変わります。  
箇条書きにする場合は、下記のようにします。

- 実験結果のグラフ表示
- 実験レポートの書き方

番号つき箇条書きは、下記のようになります。

1. 実験データの解析
2. 解析方法の改良

## 2 実験方法

次のようにすると、書き込んだとおりの形で出力できます。ソースコードの記載などに便利です。

リスト 1: 並列度の制御.

```
#include <studio.h>
#include <stdlib.h>
#include <string.h>

int NNW::process(){
    process_unit();
    process_noi();
    minpw++;
    if(minpw < maxpw) {
        return 1;
    }
    return 0;
}
```

## 3 実験結果

### 3.1 シミュレーション結果

図を挿入するときは、下のようになります。width=図の幅、中括弧内は図のファイル名を指定してください。caption コマンドの後ろには、図のタイトルと説明を記入します。図番号は、自動的に付けられます。図番号の引用は、ラベル文字列を用いて、図 1 のように引用します。また、図のサイズが小さいと、図中の文字が読めなくなるため、width の値を変更して、図のサイズを調整します。

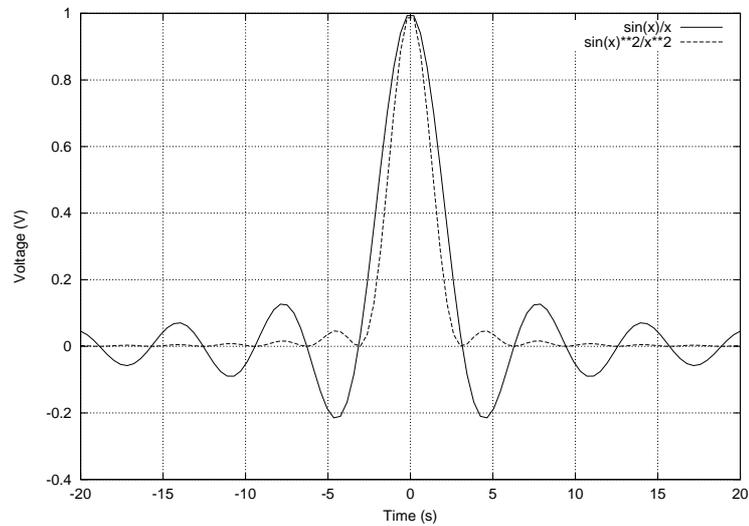


図 1: 数値計算により求めた信号波形.

### 3.2 データ処理結果

表を挿入するときは、下のようにします。表番号は、自動的に付けられます。5 行目の `c r r r` は、各列の文字出力位置を指定しています。この例では、文字の出力位置は、1 列目が中央で、2 列目から 4 列目が右寄です。左寄は、1 (エル) を書きます。この区切りを増やすと列が増えます。また、列数はデータの行数だけ作られます。表の引用は、ラベル文字列を用いて、表 1 のように引用します。

表 1: 回路 A の過渡応答特性の測定結果.

回路	立上り時間 (ns)	立下り時間 (ns)	遅延時間 (ns)
回路 A	10.1	10.2	11.3
回路 B	5.5	5.3	6.0
回路 C	2.1	1.8	1.5
回路 D	動作せず		

## 4 考察

数式は、以下のようにして書きます。数式の引用は、ラベル文字列を用いて、式 (1) のように引用します。数式の記述方法は複雑ですので、詳しくは解説 URI か書籍を参照してください。

$$\sum_{k=1}^n n = \frac{n(n+1)}{2} \tag{1}$$

数式を並べて表示するには

$$\frac{d}{dx}F_n(x) = f_n(x) \quad (2)$$

$$\int f(x)dx = F(x) + K \quad (3)$$

$$\int_a^b f(x) = F(b) - F(a) \quad (4)$$

## 5 まとめおよび感想

実験を通して得られたことや，気づいた点などを書いておきましょう．

### 参考文献

- [1] 書籍の書き方： 著者, ”題目”, 出版者, pp. 引用開始ページ-引用終了ページ, 刊行年.
- [2] 論文の書き方： 著者, ”題目”, 雑誌名, vol. 巻, No. 号, pp. 論文開始ページ-論文終了ページ, 発表年.
- [3] URI の書き方： ”ページ題目”, [http://\\*\\*\\*\\*\\*.\\*\\*\\*\\*\\*](http://*****.*****), 最終更新年.